

非小細胞肺癌（分子標的薬）：詳細は各添付文書参照のこと

ゲフィチニブ(250)

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	～	
1	ゲフィチニブ錠	250mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	～
[条件等]				1. EGFR遺伝子変異陽性例に限る 2. PPI、H2ブロッカーでAUC、Cmax低下、グレープフルーツジュース他 相互作用注意																	

タルセバ(150) エルロチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	～	
1	タルセバ錠	150mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	～
[条件等]				1. 1st lineはEGFR遺伝子変異陽性例に限る 2. 食事の1時間以上前又は食後2時間以降 3. PPI、H2ブロッカーでAUC、Cmax低下、グレープフルーツジュース他 相互作用注意																	

ジオトリフ(40) アファチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	～	
1	ジオトリフ錠	40mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	～
[条件等]				1. EGFR遺伝子変異陽性例に限る 2. 食前1時間から食後3時間は投与を避ける																	

タグリッソ(80) オシメルチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼外・呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	～	
1	タグリッソ錠	80mg/day	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	～
[条件等]				1. 2次治療以降に使用する際は、EGFR T790M変異陽性に限る 2. 術後補助化学療法で使用する場合、最大3年間まで																	

ザーコリ(500) クリソチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	～	
1	ザーコリカプセル	500mg/day	PO 分2	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	～
[条件等]				1. ALK融合遺伝子またはROS1融合遺伝子陽性例に限る																	

アレセンサ(600) アレクチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	～	
1	アレセンサカプセル	600mg/day	PO 分2	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	～
[条件等]				1. ALK融合遺伝子陽性例に限る																	

ジカディア(450) セリチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	ジカディア錠	450mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. ALK融合遺伝子陽性例に限る 2. 食後に服用する。 3. PPI等でAUC、Cmax低下、グレープフルーツジュース他 相互作用注意																	

ローブレナ(100) ロルラチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	ローブレナ錠	100mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. ALK融合遺伝子陽性例に限る。ALK-TKIとして1st lineより使用可。 2. リファンピシンは併用禁忌。 3. CYP3A阻害剤・誘導剤、グレープフルーツジュース他 相互作用注意																	

アルンブリグ(90mg, 180mg) フリガチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	アルンブリグ 7日目まで	90mg/日	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓											
2	アルンブリグ 8日目以降	180mg/日	PO								↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. ALK融合遺伝子変異陽性例に限る 2. 服用開始から7日目までは90mgで投与、8日目以降は180mgで投与 3. 規格は30mgと90mgがある 4. 強い又は中程度のCYP3A阻害剤および誘導剤との併用注意																	

タフィンラー(300)+メキニスト(2) ダブラフェニブ+トラメチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	タフィンラーカプセル	150mg×2回/日	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
2	メキニスト錠	2mg×1回/日	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. BRAF遺伝子変異陽性例に限る 2. 食前1時間及び食後2時間以内の服用は避ける 3. タフィンラーとメキニストは必ず併用する																	

ビジンプロ(45) ダコミチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	ビジンプロ	45mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. CYP2D6基質薬、PPI等との併用に注意 2. EGFR遺伝子変異陽性例に限る																	

テプミトコ(500) テポチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	テプミトコ	500mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. P-gp阻害作用を示す。 2. MET遺伝子エクソン14スキッピング変異陽性例に限る 3 食後投与																	

ロズリートレク(600) エヌトレクチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	ロズリートレク	600mg/body	PO	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. CYP3A阻害剤、CYP3A誘導剤、CYP3Aの基質となる薬剤との併用に注意 2. ROS1融合遺伝子陽性に限る（NTRK融合遺伝子陽性の固形がん）																	

タブレクタ(800) カブマチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	タブレクタ	800mg/body	PO 分2	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	~
[条件等]				1. 強力な又は中等度のCYP誘導剤、強力なCYP3A4阻害剤との併用に注意 2. CYP1A2の基質となる薬剤との併用に注意 3. P-gp、BCRPの基質となる薬剤との併用に注意 4. 胃内pHを上昇させる薬剤（PPI）との併用は可能な限り避ける 5. MET遺伝子エクソン14スキッピング変異陽性例に限る																	

レットヴィモ(320) セルペルカチニブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	レットヴィモ	320mg/day	PO	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	↓↓	~
[条件等]				1. RET融合遺伝子変異陽性例に限る 2. 服用開始後、12日程度で発症する可能性のある過敏症関連事象に注意。 3. 主にCYP3A4で代謝され、CYP2C8および3Aの阻害作用を示す。 特に患者向け冊子に以下の記載あり PPI：併用時、PPIとレットヴィモは 食後 に服用する。 H ₂ ブロッカー：H ₂ ブロッカーはレットヴィモ服用の 2時間後 に服用する。H ₂ ブロッカーを服用後は 10時間 あけてから次のレットヴィモを服用する。 制酸剤：制酸剤の服用 前後2時間 の間隔をあけて、レットヴィモを服用する。																	

ルマケラス(960) ソトラシブ

適応疾患	非小細胞肺癌	申請	呼内	投与スケジュール																	
抗がん剤/輸液	投与量	投与方法/時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	~	
1	ルマケラス	960mg/body	PO 食後	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	~
[条件等]				1. がん化学療法後に増悪したKRAS G12C遺伝子陽性例に限る 2. 主にCYP3Aの基質となり、CYP3A誘導作用およびp-gp阻害作用を示す。 3. 胃内pHを上昇させる薬剤との併用は、本剤の有効性が減弱する恐れがあるため、併用は避けることが望ましい 4. CYP3A誘導剤、P-gpの基質となる薬剤の併用に注意																	